

「共暮らしの家」が決まりました

前回のニュースレターをお送りして、早や、半年たちました。7月5日、2018年度通常総会が開催され、法人の新年度が始まりました。あわホームホスピス研究会を設立し、今年で満5年がたちました。「病気でも高齢でも豊かに生きる」ために様々な一般住民の皆さんに向けて、自宅で最期まで暮らすための提案や在宅ホスピス緩和ケアとは何かについて、医療福祉の最新情報と学習の機会を提供してきました。おかげさまで、あわホームホスピス研究会が徳島で活動していることを知っていただけの状況となりました。

1 決定までの経緯

5年間の活動を通して、5,6人が家族のように住んで、最期まで自分の意思を尊重されて共に暮らす、自宅に限りなく近い環境を備えた、中古の一軒家を探してきました。先の条件を満たしていても、家主の理解、耐震性、駐車場スペース、防火設備を含めた改修費用などの条件が揃う物件となると「帯に短し襷に長し」の状況で経過してきました。

昨年末、神戸なごみの家での研修後に、現在当法人の事務局に一室を提供いただいている、福井邸の家主の方から、当法人のホームホスピスの活動に共感し、使用してよいという申し出を頂きました。今年4月に、家主の家族にも同席していただき、ホームホスピスの理念と共同生活の趣旨について説明、十分な話し合いを持ちました。意向を伺った結果、家主の専用のトイレなどプライバシーを確保できるよう改修案に盛り込む条件で賃貸契約を結ぶ運びとなりました。

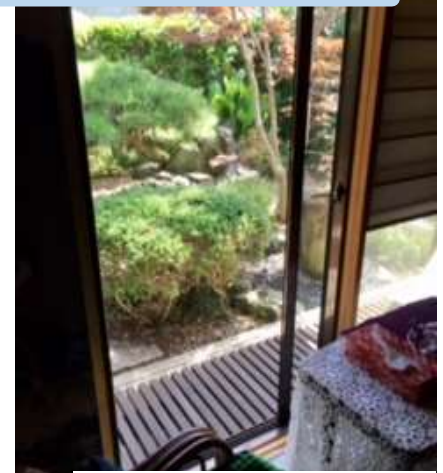
2 全国ホームホスピス協会理事の内見

正会員の中で、司法書士、建築士の方に改修案の図面や法人と家主の契約内容について、取りまとめでいただき開設準備を進めています。今年中に、日本財団へホームホスピスの開設準備資金について申請する予定です。6月22日に昨年リーダー養成研修でもお世話になりました、神戸なごみの家代表、松本京子さんが小松島に内見のためにお越しくださいました。対象の家をご覧いただき、「平屋で各部屋は南面し庭が見える、非常時は縁側から各自避難でき、風が良くとおる好条件の家」と評価していただきました。また、正会員や家主が同席するなか、ホームホスピスの理念を活かす暮らしのあり方についてお話を伺い有意義なひと時を持つことができました。

改修について主な提案内容

- ・福井邸の雰囲気を変えないように家主の思いを汲んだ改修計画を立てる
- ・最低限の改修で5年間やってみる。
- ・車椅子での暮らしを想定して、玄関の段差解消、洗面台、トイレ、畳の材質など決めていく。

リビング



部屋から縁側、庭を望む